

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 275

2019/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

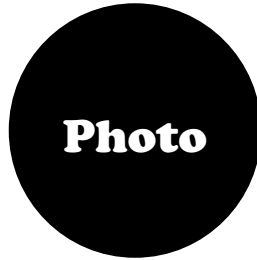
GREEN COLUMN

01. 納直次の風景画

02. 探検ミニジオラマ模型



今月の一枚



「リニューアル！」

表紙写真・文／久保田結衣

第3展示室（美術展示室）の展示更新を行いました。ゆったりとした空間で、芸術作品に触れていただけるようなレイアウトとなっています。「これは何だろう？」「この風景、見たことあるなぁ」…等作品と対話をして、何か感じていただければ幸いです。

ふるさとにゆかりのある作家や国内外の作家の油彩、水彩、彫刻…個性豊かな作品の数々が、皆さまのお越しをお待ちしています。

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月7日（金）～令和2年1月19日（日）

ロビー展「小さなごみも
見逃さない!マイクロプラスチックを探せ!!」～令和2年3月31日（火）

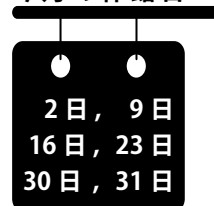
プチ工房「しめ縄」 12月18日（水）,20日（金）

Information. 参加者募集

プチ工房「しめ縄」

● 12/18 (水), 20 (金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 (300 円) ●町田善康 (美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

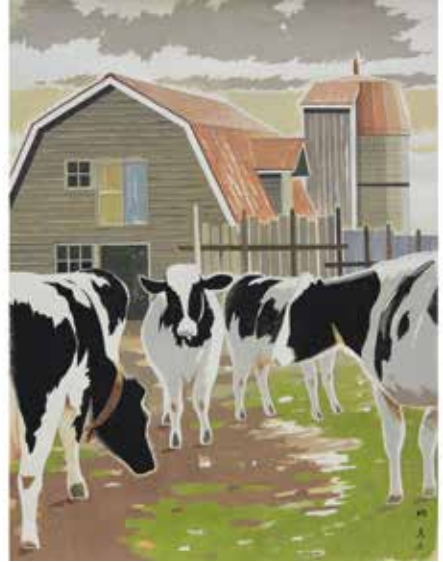
今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



納直次の風景画

文／久保田結衣・絵／納直次

常設展示でご覧いただける納直次（1910-1996）の作品は、不透明水彩が使われています。納は塗り重ねによる諧調表現を用いて、幾重に変化する北海道の雄大な自然を鋭敏に感じ取り、不透明水彩の表現を追求しました。

納は、池田町に生まれ、家業の移転に伴い美幌町へ移ります。幼い頃よりオホーツクの海や漁船などを描き、絵に親しみを持ちながら、日々を過ごしました。旧制網走中学時代は、後の独立展の画家となる居串佳一（1910-1955）とともに、「白洋画会」に所属し、積極的に美術活動を行いました。卒業後は教鞭をとるかたわら、水彩画家として名を広げていきます。

手がけた作品からは、独自のまなざしで、北海道の景色を見つめていることがうかがえます。常設展示されている「秋のけはい」は、農村風景が描か

れており、空模様や落ち着いた色みからは、独特の哀愁が感じられます。また、「題不詳」では、広大な風景の中に、雪解けの道路が描かれています。いずれも、不透明水彩の特徴を生かした、重厚感のある陰影が施されており、情感豊かに表現されています。納の美しさにとらわれず、リアリティに帯びた風景を描く姿勢は、まさに北海道の風土に根ざした画家と言えるのかもしれませんが。

現在納の作品は、4点の作品がご覧になれます。作家ならではの視点から、北海道の風景を堪能していただければと思います。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

探検ミニ ジオラマ模型

写真・文／鬼丸和幸



松浦武四郎（1818～1888年）という人物をご存知でしょうか。幕末～明治初期に活躍した人物で、樺太（現在のサハリン）や蝦夷地（現在の北海道）をはじめ、国内を広く踏査し、その地理や人々の風俗などを細かく記録し、紀行集や地図などの形で世に広く紹介しました。“北海道”の名付け親としても有名です。

博物館 2F 特別展示室に面した廊下の一部には、彼が道内外を踏査した様子について、残された絵図などをもとに、制作したミニジオラマ模型を展示しています。今回、この廊下に展示していますミニジオラマ模型を、よりわかりやすく見ていただけるよう、手直し作業を始めています。

このミニジオラマ模型は、約10年前に学芸協力員の方々と、紙粘土や石砂、プラモデルのパーツ、鉄道模型情景作成用部品などを材料にして、加工

しながら手作りで制作したものです。「もう少し、リアルに表現し直そう」ということで、特に背景や解説パネルなどを中心に、手を加えることとしました。武四郎がオホーツク海の浜辺で、地元アイヌの方々の訴えを聞いているシーンを再現したミニジオラマ模型がありますが、「もっと砂浜や海の情景をリアルに表現しよう」ということで、学芸協力員 E さんに作業をお願いしました。平坦で単調な色彩だった砂浜は、適度に起伏をつけ、波打ち際周囲の色を調整するとともに、海の色や波の形状が工夫され、よりリアルに海辺の様子が表現できました。

来館されました折には、リアルに再現されましたミニジオラマ模型をご覧ください。幸いです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

【お知らせ】

年末年始の休館日は、12/30～1/6です。

それに伴い、グリーンレター1月号は休刊となります。

みなさまよい年末年始をお過ごしください。

学芸員のつぶやき



北見市内に其模型屋さんがあります。店内は、昭和の古いプラモデルや玩具などで埋まり、レトロな雰囲気を漂わせています。この日、展示制作用部材の購入で立ち寄りしましたが、懐かしさに駆られて「宇宙戦艦ヤマト 1/1000」を衝動買いしてしまいました。(鬼丸)